

東京 附属病院駅前移転30周年を祝う 多摩クリニック開院5周年



東京千代田区富士見
日本歯科大学新聞会
発行兼人 中原 泉
編集人 1部10日
発行日 偶数月末日
定価 1部10円
編集室 (〒951-8580)
新潟市中央区浜浦町1-8
☎ 025 (267) 1500



本学のシンボルマーク

東京の本学附属病院は飯田橋駅前に移転・開設三十周年、口腔リハビリテーション多摩クリニックは開院五周年を迎えた。おの十月に記念式典と祝賀会が行われた。

附属病院駅前移転30周年



「日本歯科大学ファースト」と語る中原泉理事長・学長

前に移り、三十周年の節目を迎えたことから、十月三十日夕刻、附属病院第五会議室において駅前開設三十周年式典ならびに祝賀が開催された。記念式典ではまず開設者である中原泉理事長・学長が、「私は校務を千代田区の一区内で済ませている。これは本学が地の利に恵まれた大学であ



乾杯の発声は衆議院議員の三ツ林副院長



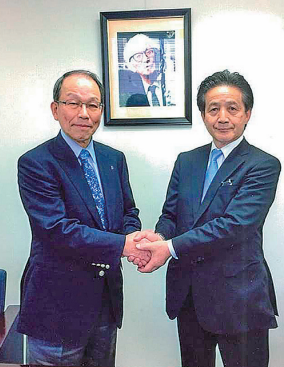
左から菊谷副院長、三ツ林副院長、三代病院長、内川副院長



中原貴教授による記念講演

の祝宴は九月一日付で日本医療機能評価機構による病院機能評価が更新されたこと、衆議院選挙において内科学講座教授で副院長の三ツ林裕巳先生が再々選を果したことも一緒に祝賀する会である」と挨拶し、三ツ林副院長の乾杯の発声のち歓談に入った。祝宴の中、石田鉄光総合診療科長の代表挨拶に始まり、旧病院からの引越しの想い出や開設時の昔話など懐かしい話が、各診療科長ならびに室長から語られた。最後に、菊谷武副院長(多摩クリニック院長)が閉会の辞を述べた。また、同日昼休みに記念事業として発生・再生医学講座の中原貴教授(副学長)による「附属病院と研究室をつなぐ歯の細胞バンク」歯科医師共通のゴールをめざして」と題した講演が行われ、多くの教職員が聴講した。(病院事務部長 鈴木洋一)

選三ツ林教授3選(埼玉)
衆議院長谷川先生初当選(群馬)
十月二十二日に第十四区で自由民主党から立候補した三ツ林裕巳先生(六十七回)が比例区(北関東ブロック)で初当選した。本学出身の衆議院議員(代議士)は、



近藤勝弘校長と上写真右は長谷川代議士、下写真左は川俣市長



三ツ林副院長と川俣市長

が三選した。また群馬三十六回卒の中村英男先生に続き三人目となる。同日行われた栃木県那須烏山市市長選挙では、無所属の川俣純子先生(七十四回)が初当選した。川俣先生は、那須烏山市で開業し、二〇一〇年に市議選でトップ当選を果たし、二期目に辞任して市長選に立候補した。少子高齢化の進む街に「明るさと活気」などを公約に掲げた。

多摩クリニック開院5周年

日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック(以下、多摩クリニック)は、本年十月十六日で開設から五周年を迎えた。



多摩クリニック開院5周年パーティー



嚙下造影検査を見学する学生たち

飯田橋駅前・附属病院
江戸城の牛込御門あと飯田橋駅西口、神楽坂に向う牛込橋の手前にはかつて江戸城の外郭として牛込御門があり、周辺には広大な旗本屋敷が守りを固めていた。本学は、昭和三十年に現在の体育館と附属病院の地を購入した。その当時は道路に面して武家屋敷の長屋門が残っており、聖三木修道会の寮があったので、教職員や女子学生の寮として使用していた。

東小金井駅前・多摩クリニック
昭和四十六年刊行の『日本歯科大学60周年誌』には、小金井の地名について次のような記述がある。「この地、元来段丘の下に黄金(こがね)の如き水を湧出し、それを中心に集落が発達したため、ついに黄金井と称する様になり、現在小金井と当て字をなすに至ったのであるが、将来このあたりは黄金の地になることであろう。」

生命歯学部小児歯科学講座の荻部洋行教授は、十月四〜七日にチリ・サンティアゴで開催された第二十六回国際小児歯科学会(IAPD)にて、「Morita Award」Research部門で最優秀発表賞を受賞した。演題名は「Geographical differences in orofacial pain conditions and daily activities in Japanese children」で、日本人小児における口腔顔面領域の痛みと生活習慣の地域差に関する疫学研究の結果を発表した。

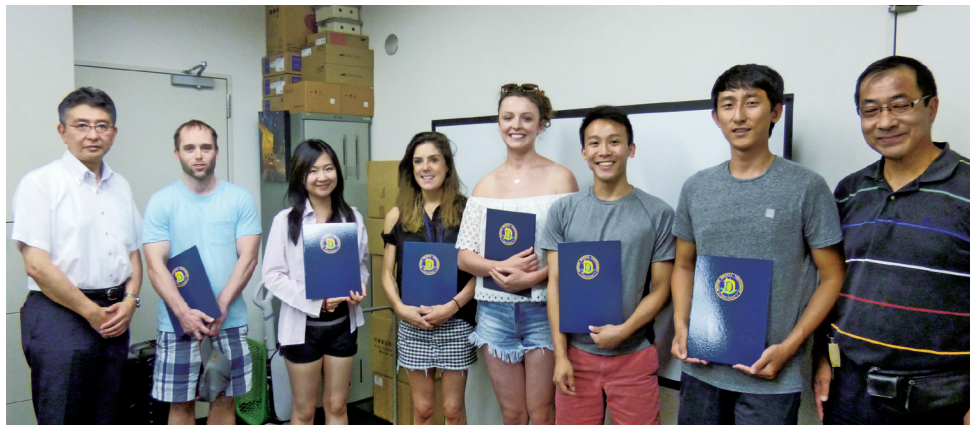
荻部洋行 教授(東京・小児歯科) ~ 国際小児歯科学会 ~ 「J Morita Award」を受賞



羽村章生命歯学部長(後列左端)、菊池憲一郎学生部長(後列右端)とともにMUからの訪問学生(前列左2名)とUBCからの交換学生(前列右端と後列の3名)

International Exchange 広がる国際交流の輪

本学では交換学生として3月に両学部の5年生をアメリカのワシントン大学(UW)とカナダのプリティッシュ・コロンビア大学(UBC)に派遣した。また、3月に台湾の中山医学大学に4名を派遣した。7月にはUBCから4名、イギリスのマンチェスター(MU)大学から2名の学生が来日し、東京と新潟の両学部で2週間研修した。



新潟生命歯学部で修了証を手にするUBCとMUの学生たち 左端は藤井一維新潟生命歯学部長、右端はIUSOHセクレタリーの影山幾男教授

十月二十八日から二十九日まで、福岡国際会議場で開催された第三十四回日本障害者歯科学会総会学術大会において、日本歯科大学から五名がそれぞれ表彰を受けた。附属病院口腔リハビリテーション科の矢島悠里助教、佐川敬一助教と古屋裕康助教は、日本障害者歯科学会IADH研究奨励賞を受賞した。佐川助教と古屋助教は、Chicago学会受賞により同奨励賞の特別表彰を受けた。受賞対象となった演題

東京 口腔リハビリテーション科医員 臨床口腔機能学大学院生ら5名 障害者歯科学会優秀発表賞を受賞

名は次のとおり。 Yuri Yajima: Relationship between tongue strength and life prognosis in elderly people needing at-home nursing care

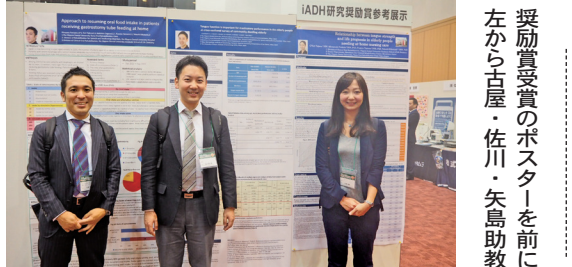
Keiichiro Sagawa: Tongue function is important for masticatory performance in the elderly people

Hiroyasu Furuya: Approach to resuming oral food intake in patients receiving gastrostomy tube feeding at home

また生命歯学研究科臨床口腔機能学専攻の磯田友子大学院生は、「ダウン症候群児の摂食機能の発達―捕食時口唇圧について―」仲澤裕次郎大学院生は「経管栄養注入前の事前経口摂取が重症心身障害者の脳機能に与える効果について」、日本障害者歯科学会学術大会優秀発表賞を受賞した。



表彰式では菊谷武教授が代理で受領



奨励賞受賞のポスターの前に左から古屋・佐川・矢島助教

渡邊院生・高橋助教(新 日本口腔外科学会優秀賞) 新潟生命歯学研究科顎口腔全身関連治療学専攻の渡邊美穂大学院生は、十月二十日〜二十二日に京都国際会館で開催された、第六十二回公益社団法人日本口腔外科学会総会・学術大会で、最優秀口演発表賞(李春根賞)と優秀口演発表賞を受賞した。演題名は「リモデリング能獲得が示唆された3D-Vivoにおける微細血管網を含む3次元骨組織形成」。また新潟生命歯学部口腔外科学講座の高橋悠助教は、「ヒト外胚葉性間葉系幹細胞を細胞源とした下歯槽神経再生療法に関する検討」により優秀ポスター賞を受賞した。



最優秀口演発表賞などを受賞した渡邊大学院生(右)と、優秀ポスター賞の高橋助教

The 36th Annual Meeting of JAPAN HUMAN CELL SOCIETY in TOKYO

生命科学をにう医科と歯科の融合

主催 中原 貴 (日本歯科大学生命歯学部 富士見ホール 発生・再生医学講座 教授)

第36回 2018年8月4日(土)〜5日(日) 日本歯科大学生命歯学部 富士見ホール

第36回 日本ヒト細胞学会学術集会

併催 日本口腔組織培養学会協賛シンポジウム/歯の細胞バンク認定医セミナー

事務局 事務局員 井出吉昭 (日本歯科大学生命歯学部 発生・再生医学講座 講師) Tel: 03-3261-4311 Fax: 03-3261-8357 内線: 2492 E-mail: humcell36@ky.ndu.ac.jp

一般公開期間 2018年3月12日(月)〜5月11日(日) 単位認定・日本医師会生涯教育制度および日歯生涯研修事業に登録予定

生命歯学部発生・再生医学講座の田巻友一非(発生・再生医学)は、日本歯科大学歯科学講座の田巻友一非(発生・再生医学)のオドントロジー賞を受賞した。演題名は「ヒト外胚葉性間葉系幹細胞を細胞源とした下歯槽神経再生療法に関する検討」により優秀ポスター賞を受賞した。



ガラス製の表彰額を手にする田巻非常勤講師(右)と、発生・再生医学の中原貴教授

ジー賞(ODONTOLOGY PRIZE 2017)を受賞した。受賞した論文は、2013年発行の「Odontology」101(2)に掲載されたYuchi Tanaki, Taka Nakahara, Hiroshi Ishikawa, Soh Sato: In vitro analysis of mesenchymal stem cells derived from human teeth and bone marrow. 今回は同賞初の受賞で十月十七日に授賞式が行われた。

Nippon Dental University 62th FUJIMI FESTIVAL

2017.10.28(sat)・29(sun)

日本歯科大学 第62回 富士見祭 2017年10月28日(土)・29日(日)

新潟 土持教授(放射線) 鈴木教授(化学) 最終記念講義



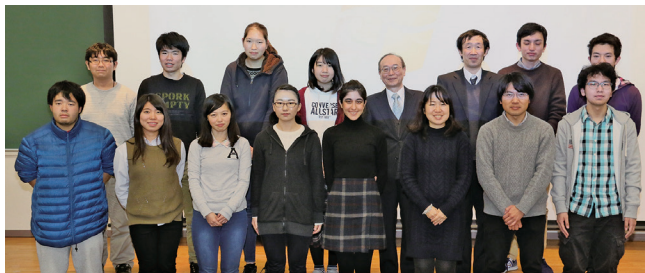
花束を手にする土持教授、医局員たちと



中原学長から記念品



化学の鈴木教授



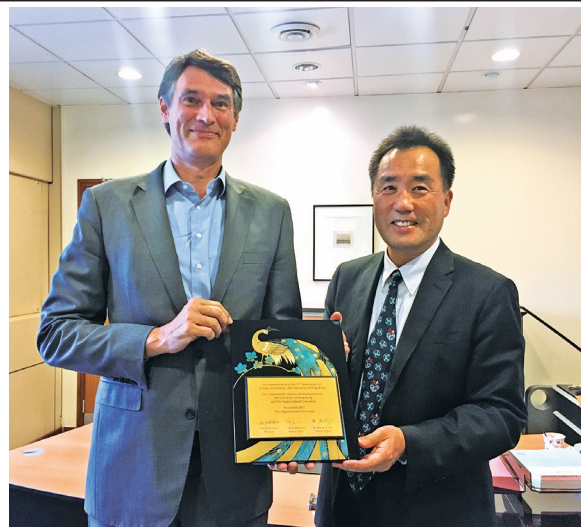
最終講義のあと学生たちと記念撮影

土持眞 教授の最終記念講義は十一月十六日午後六時十五分から新潟生命歯学部アイヴィホールで開催された。

「イメージングから治療へ―研究者をめざす若手に伝えたいこと」と題した記念講義には、教職員、大学院生、学生、関係者など多数が聴講した。土持教授は昭和五十年三月本学卒業(第六十四回卒)。同年六月新潟生命歯学部口腔外科学教室第二講座助手、講師、助教授を経て、平成九年四月歯科放射線学講座教授に就任。二十年余にわたり同講座を主宰し、先端研究センター所長などを歴任した。二十年にわた

鈴木常夫 教授の最終記念講義は、十二月七日午後六時より新潟生命歯学部アイヴィホールで開催された。「有機合成42年―フラシからアルデヒドまで―」と題した記念講義には、教職員、大学院生、学生、関係者など多数が聴講した。

鈴木教授は昭和四十八年三月新潟大学理学部化学科卒業、五十年三月同大学大学院理学研究科修士課程修了。同年四月新潟生命歯学部化学助手、講師、助教授を経て、平成十七年教授に就任。



生命歯学部事務部長の米沢登主事は、「秋の防災予防運動『防火のつどい』で、防火管理者として東京消防庁より予防部長表彰を受けた。防火管理が特に適切で、他の模範と認められる防火管理者が表彰される。

東京・米沢事務部長 消防庁より表彰を受く



東京消防庁から表彰を受けた生命歯学部の米沢事務部長

香港大学創立35周年を祝う

本学姉妹校の中国の香港大学歯学部は創立三十五周年を迎えた。記念式典と記念シンポジウム、祝宴ならびに同歯学部がWorld University Rankingsにおいて二年連続で歯学部第一位にランクされた祝賀会が十一月二十三日開催され、羽村章生生命歯学部長が列席した。一九一一年に創立された香港大学はアジアのトップ校で、十学部からなる。

歯学部(牙醫學院)は、一九八二年に開設され、現在は歯周病学のトマス・フレミング教授が歯学部長を務めている。本学とは二〇一二年に姉妹校提携した。上写真は、フレミング歯学部長(左)に、本学からの記念楯を手渡す羽村生命歯学部長。……

表彰式は十一月十日ホテルニューオータニで開催された平成二十九年秋の防災予防運動「防災のつどい」で行われ、米沢事務部長に「防災管理者業務適切功労」の表彰状が授与された。

本学では、平成二十六年にも東京の附属病院自衛消防隊(隊長・三代冬彦病院長)が、東京消防庁予防部長表彰を受けている。

片桐名誉教授(新潟・病理) 川崎名誉教授(新潟・保存) 小口前東京短大大学長の叙勲

平成二十九年秋の叙勲で、本学名誉教授の片桐正隆先生、川崎孝一先生は、瑞宝中綬章を受章した。東京短期大学の前学長で、本学客員教授の小口春久先生は、瑞宝小綬章を受章した。

片桐名誉教授は昭和三十三年三月本学卒業(第五十一回卒)。同年六月本学歯学部病理学教室助手を経て、五十年四月新潟歯学部病理学教室教授に就任。二十三年間にわたり同病理学講座を主宰した。

川崎名誉教授は、昭和三十七年三月本学卒業(第五十一回卒)、四十一年三月東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了。新潟大学歯学部助教を経て、五十四年四月新潟歯学部歯科保存学第一講座教授に就任。十九年間にわたり同講座を主宰した。

小口前東京短大大学長は、東京医科歯科大学歯学部卒業、同大学院歯学部卒業、同大学院歯学部本館の三階と七階で開

学術フォーラム 2018

日本歯科大学校友会では、二〇一八年二月二十五日に、学術フォーラム2018を生命歯学部本館の三階と七階で開催する。プログラムは左表の通り。

なお三階の132・134講堂ではミニデンタルショーを開催する。133講堂の校友会ブースには、カフェコーナーのほか、両生命歯学部の

研究科を修了し、北海道大学歯学部教授等を経て、平成十六年四月より本学生命歯学部小児歯科学講座客員教授に就任。

和三十三年三月本学卒業(第五十一回卒)、四十一年三月東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了。新潟大学歯学部助教を経て、五十四年四月新潟歯学部歯科保存学第一講座教授に就任。十九年間にわたり同講座を主宰した。

講座を紹介するコーナーを設ける予定。受講料(事前申込み)は、校友会員一万円、非校友会員一万五千元、歯科衛生士・歯科技工士三千円、本学一〇二・一〇六回卒業生・大学院生・附属病院研修医・学生は無料。詳細は校友会HP、十一月発行の『日本歯科大学校友会・歯学会会報』四十三巻二号に掲載。

日本歯科大学校友会 学術フォーラム 2018 開催のお知らせ

とき/平成30年2月25日(日) ところ/日本歯科大学生命歯学部 本館3F・7F

●演者ならびに演題
最新の理論や技術、整理しておきたい知識などを企画しました。希望の演題を自由にお選び下さい。テーブルクリニックはどなたでも聴講可能ですが、実習希望者は各回の定員をご確認のうえお申込みください。(申込・入金済の方から先着とさせていただきます)

場所	氏名	卒回	所属	職階	演題
131講堂	講演1 松野 智宣	76	生命歯学部 口腔外科学講座	准教授	直ぐに使える問診票と医療面接のポイントから歯科的対応まで～疾患別照会状の書き方～
	LS 水谷 太尊	79	新潟病院 口腔外科	准教授	かかりつけ歯科医が知っておくべき口腔がんの検査と治療
	講演3 蓮見 壽伯	67	生命歯学部	客員教授	歯科医師・医療機関を守るカルテ記載について～元厚生労働技官の目線～
	講演5 松本 勝利	-	福島県開業 GLOBAL DENTAL SYSTEM	-	床義歯臨床における押さえるべきKey Point!
	講演2 廣安 一彦	79	新潟病院 口腔インプラント科	准教授	これからのMIインプラント治療
135講堂	LS 仲谷 寛	74	附属病院 総合診療科1	教授	リグロス® ってどうなの? (リグロス® 基礎編)
	講演4 大澤 銀子	83	附属病院 総合診療科1	准教授	リグロス® 成功の鍵 -フラップ手術の勘所- (リグロス® 実践編)
	講演6 中野 智子	-	新潟生命歯学部 食育・健康科学講座	客員教授	噛むから始まる食育
	TC1 前野 雅彦	98	生命歯学部 接着歯科学講座	助教	ボンディングシステム本来の性能を引き出す勘所
7F臨床実習室	TC3 五十嵐(武内)寛子	93	生命歯学部 歯周病学講座	助教	見て触って! Nd:YAGレーザーのテクニック
	TC2 柳下 寿郎	78	附属病院 歯科放射線 口腔病理診断科	教授	スマホを使って、病診連携! ~本当に出来る!? 万が一に備えて!~
132講堂	PS 五木田 旬子	100	附属病院 口腔インプラント診療科	非常勤 歯科医師	外傷による欠損部にインプラント治療を用いた1症例
	PS 元開 早絵	-	附属病院 口腔リハビリテーション科	非常勤 歯科医師	重症心身障害児者に対する在宅訪問診療での摂食指導について
	PS 我妻 由梨	95	附属病院 総合診療科2	助教	咬筋におけるカルシトニン遺伝子関連ペプチド(CGRP)発現について~胎生期から生後と老齢期の動態~
134講堂	PS 中原 貴	88	生命歯学部 発生・再生医学科学講座	教授	歯の細胞バンクの現状と展望
	PS 石田 祥己	100	生命歯学部 生命歯科学講座	助教	各種3Dスキャナーを用いたブリッジ支台模型のスキャン精度
	PS 三木 貴仁	103	生命歯学部 口腔外科学講座	大学院生	手軽にできるチタン表面改質法~チタンのアンチエイジング~

※LS=ランチョンセミナー TC=テーブルクリニック PS=ポスターセッション
●ミニデンタルショー【9:00~17:00】場所:3F132講堂,134講堂 ●校友会ブース 場所:3F133講堂

第30回 姉妹校交換学生

日本歯科大学の姉妹校交換学生制度は、学部学生の国際交流の場として、一九八六年（昭和六十一年）より行われていた。今年で度三十三回をむかえ、これまで派遣と受入れは総計四一五名にのぼる。

毎年三月にアメリカ・ワシントン州シアトルのワシントン大学歯学部（UW）と、姉妹校であるカナダ・バンクーバーのブリティッシュ・コロンビア大学歯学部（UBC）を、本学の生命歯学部と新潟生命歯学部から選抜された五学年の学生



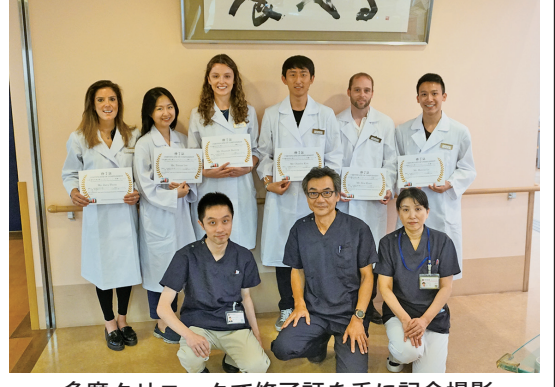
UBCでは講義や臨床実習、グループワークに参加



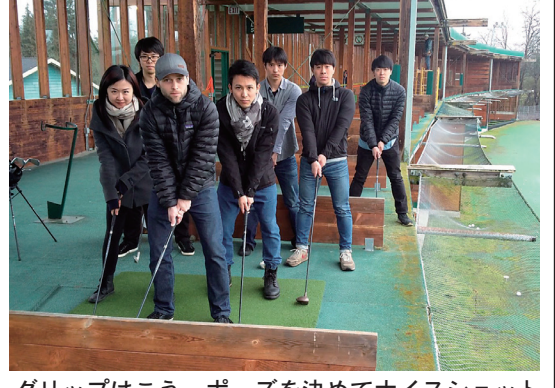
東京の秘境!?奥多摩でBBQを楽しむ



全員集合、カナダの大自然リンバレー渓谷に遊ぶ



多摩クリニックで修了証を手に記念撮影



グリップはこう、ポーズを決めてナイスショット



新潟のパワースポット・弥彦山でカシャッ



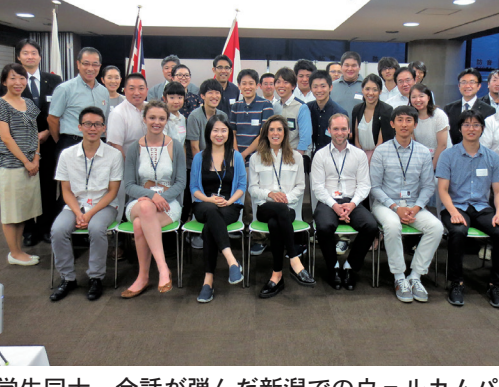
UBCのShuler歯学部長、Shah教授と



今や定番！東京の中原市五郎先生像の前で



UWではSadr教授からお話を伺うことができた



学生同士、会話が弾んだ新潟でのウェルカムパーティー

派遣と受入れ 総計四一五名に

四名が、不安と期待を胸に秘めて、まずアメリカ・シアトルを目指した。出発から到着まではあつという間に時間が経過し、シアトル・タコマ空港に無事に降り立った

を膨らませながら、Place Market & Space Needleと「したメントルが誇る素晴らしい観光名所を回った。また、初顔合わせとなった生命歯学部二名と新潟生命歯

を訪問し、午前中はRestorative Dentistry Acting Associate ProfessorであるAlicia Sadr教授の案内で研究室、学生実習室、院内歯科技工室、歯科病院診

を訪問し、午前中はRestorative Dentistry Acting Associate ProfessorであるAlicia Sadr教授の案内で研究室、学生実習室、院内歯科技工室、歯科病院診

を訪問し、午前中はRestorative Dentistry Acting Associate ProfessorであるAlicia Sadr教授の案内で研究室、学生実習室、院内歯科技工室、歯科病院診

を訪問し、午前中はRestorative Dentistry Acting Associate ProfessorであるAlicia Sadr教授の案内で研究室、学生実習室、院内歯科技工室、歯科病院診

を訪問し、午前中はRestorative Dentistry Acting Associate ProfessorであるAlicia Sadr教授の案内で研究室、学生実習室、院内歯科技工室、歯科病院診

を訪問し、午前中はRestorative Dentistry Acting Associate ProfessorであるAlicia Sadr教授の案内で研究室、学生実習室、院内歯科技工室、歯科病院診

のとき、ようやく交換学生としての日々が始まることに実感した。

三月六日は幸運にも研修と親睦を図っている。今年の本学一行は、三月五日に両学部の五年生

のとき、ようやく交換学生としての日々が始まることに実感した。

三月六日は幸運にも研修と親睦を図っている。今年の本学一行は、三月五日に両学部の五年生

のとき、ようやく交換学生としての日々が始まることに実感した。

三月六日は幸運にも研修と親睦を図っている。今年の本学一行は、三月五日に両学部の五年生

のとき、ようやく交換学生としての日々が始まることに実感した。

三月六日は幸運にも研修と親睦を図っている。今年の本学一行は、三月五日に両学部の五年生

のとき、ようやく交換学生としての日々が始まることに実感した。

三月六日は幸運にも研修と親睦を図っている。今年の本学一行は、三月五日に両学部の五年生

が訪問している。その後、七月下旬にUBCからの訪問学生を東京と新潟に受け入れ、相互に研修と親睦を図っている。

今年の本学一行は、三月五日に両学部の五年生

が訪問している。その後、七月下旬にUBCからの訪問学生を東京と新潟に受け入れ、相互に研修と親睦を図っている。

今年の本学一行は、三月五日に両学部の五年生

が訪問している。その後、七月下旬にUBCからの訪問学生を東京と新潟に受け入れ、相互に研修と親睦を図っている。

今年の本学一行は、三月五日に両学部の五年生

が訪問している。その後、七月下旬にUBCからの訪問学生を東京と新潟に受け入れ、相互に研修と親睦を図っている。

今年の本学一行は、三月五日に両学部の五年生

が訪問している。その後、七月下旬にUBCからの訪問学生を東京と新潟に受け入れ、相互に研修と親睦を図っている。

今年の本学一行は、三月五日に両学部の五年生

が訪問している。その後、七月下旬にUBCからの訪問学生を東京と新潟に受け入れ、相互に研修と親睦を図っている。

今年の本学一行は、三月五日に両学部の五年生

が訪問している。その後、七月下旬にUBCからの訪問学生を東京と新潟に受け入れ、相互に研修と親睦を図っている。

今年の本学一行は、三月五日に両学部の五年生

が訪問している。その後、七月下旬にUBCからの訪問学生を東京と新潟に受け入れ、相互に研修と親睦を図っている。

今年の本学一行は、三月五日に両学部の五年生

が訪問している。その後、七月下旬にUBCからの訪問学生を東京と新潟に受け入れ、相互に研修と親睦を図っている。

今年の本学一行は、三月五日に両学部の五年生

東京・新潟ともに学部内の施設や研究室、附属病院の各科をつぶさに見て回り、カナダとの違いに驚いた様子であった。

また、都内観光や新潟まつりなどさまざまな日本文化にふれあい、多くの経験を積んでいた。我々交換学生は、カナダでの素晴らしいおもてなしへの感謝の気持ちを込めて、精一杯のおもてなしをお返しできたことを大変嬉しく思う。

本学入学時よりこのプログラムへの参加を心待ちにして私にとつて、合計約一月に及んだ両校の交流は、何物にも代え難い貴重な学びとなった。

見聞を広げたのみではなく、生涯にわたる素敵な出会いを経験したこと、国際色豊かな感性と柔軟な思考を併せ持った歯科医師として、将来の歯科界を支えることのできる人材になりたいという思いが一層増した。

最後に、姉妹校交換プログラム実施に尽力いただきました関係各位に、心より御礼を申し上げます。

（交換学生 勝沼昌太郎）
（交換学生 勝沼昌太郎）

交換・派遣 訪問学生
※二〇一七年度姉妹校交換学生は次の通り。
（日本歯科大学）
生命歯学部 勝沼昌太郎
新潟生命歯学部 畑 賢佑
生命歯学部 土屋健太郎
新潟生命歯学部 平井 悟
（ブリティッシュ・コロンビア大学）
Ms.Teresa Lee
Mr.Marcus Lo
Mr.Charles Kim
Mr.Alex Hyatt
※中山医学大学への派遣学生と、マンチェスター大学からの訪問学生は次の通り。

- Ms.Teresa Lee
- Mr.Marcus Lo
- Mr.Charles Kim
- Mr.Alex Hyatt
- 中山医学大学への派遣学生（三月四日～十八日）
- 生命歯学部 三村 英旺
- 生命歯学部 松浦 春香
- 新潟生命歯学部 野澤南帆子
- 山室 諒

- Ms.Zara Thom
- Ms.Hannah Barrow
- マンチェスター大学訪問学生（七月二十四日～八月七日）